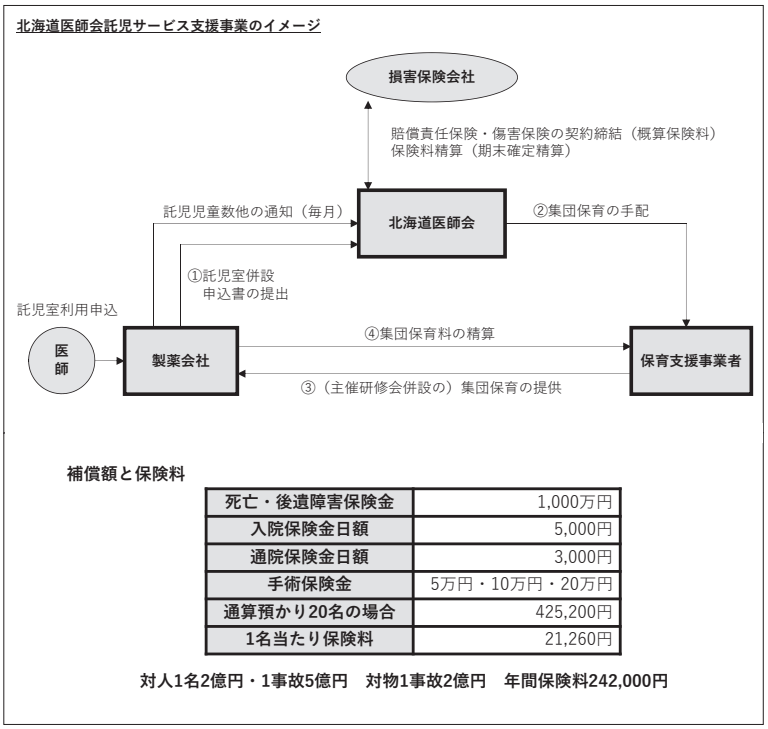
Actions
アクションズ
若手医師活動報告

研修会・講演会の託児サービスの普及に向けて

北海道医師会 医師キャリアサポート相談窓口コーディネーター
西田　幸代
札幌医科大学　泌尿器科　助教

札幌医大卒業後、札幌医大病院のほか、地域の基幹病院や京都大学病院、関西医大病院で臨床のスキルを学び、札幌医大大学院ではがん幹細胞の研究をしていました。３年ぶりに札幌医大病院に戻り、二人の息子の世話にも追われながら、日々奮闘中です。

研修会や講演会は平日夜や週末の開催が多いですね。子どもを持つまで気にならなかったことですが、参加しないとならない研修会や聞いてみたい講演会があった際に、まず考えるのは自分の子どもたちをどうするか、ということです。保育所の延長保育で足りるのか、夫に任せることができるのか、信頼できる第三者に預けることができるのか、子どもたちの食事はどうするのか…出席したい・参加したいというモチベーションが高いほど、この思考を繰り返し、日々調整し、諦めるかどうか悩みます。製薬会社主催の講演会では、担当者さんにお願いすることで託児室を開設していただけたことがありました。北海道医師会長も製薬会社等が医師を対象として行う講演会・研修会などにおいての託児室併設を依頼されておりますが、それでも自分の７年間の経験では開設要望に応えてくださったのは２社のみで、子どもを連れて勉強するということはなかなかハードルが高いことと感じています。



子どものいる医師からは、託児サービスがないこと、頼んでも開設してくれないことなど嘆く声が多々聞かれますが、開設のハードルが高いのには理由があります。託児サービスを開設する際、どこに頼んだらいいか分からない、費用がいくらかかるのか分からない、子どもを預かって子どもが怪我などしたらどうする、などなど。託児開設の経験がない限り、研究会や講演会の主催者側は困って当然です。そこで北海道医師会女性医師等支援相談窓口では、2016年に「研修会・講習会・講演会等の開催時の託児サービス併設マニュアル」を作成しました。医師会主催の講演会では託児サービスが付くことが多く、そのノウハウを分かりやすくまとめたものです。北海道医師会の女性医師等支援相談窓口（医師キャリアサポート相談窓口に改称）のホームページ（http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien）からダウンロードが可能ですので、託児サービス開設の要望があるけれどどうしたらいいか分からず困っている研修会や学会・講演会の事務局の皆さんに、ご利用いただきたいと思います。

さて、託児サービスがなくて困っているのは北海道の医師のみではありません。また、北海道の医師が他府県での学会などに参加する場合を考えても、北海道だけの問題ではありません。専門医の取得のため、あるいはサブスペシャリティを身に着けるため、年々一層多くの学会や研修会参加が必要になってきていると感じます。子育ての第一義的責任を負う医師が頻回に学会に参加できるわけではないですから、どう

しても参加のために子どもを連れていく選択をする場合もあります。子どもを連れての学会というと旅行気分と考える方もいらっしゃるかもしれませんが、実際に子どもを連れて学会に参加するのは決して容易なことではありません。託児サービスがない場合、自分でベビーシッターを探そうにも知らない土地でどこが適切な業者なのかも分からないとか、ネット上の信用できるという口コミを見て依頼しても予約時間に遅刻されてしまい、出席したかった会に間に合わなかったうえ、費用は全額負担しないとならなかったという声も聞かれます。そんな大変な思いをしてでも学会に行って勉強したいと考える医師をサポートしたいと考えています。一方、学会主催の事務局を担う立場の方(いわゆる医局の先生方)からは、いざ託児サービスをと思っても伝手がなく、総合コンベンション企業に依頼すると高額な費用が打診されてしまい設置できなかったという声も聞かれます。学会とはいっても、事務局員を雇用している大きな学会から、医師自ら事務局を担うものまでさまざまです。どのような学会においても託児サービスを普及させるには、各地域に根付いた組織との連携が必要です。日本泌尿器科学会のダイバーシティ推進委員会では、このような実情を鑑み、日本泌尿器科学会として日本医師会に全国の医師会で北海道医師会が作成したのと同様な託児サービスマニュアル配置を依頼する要望書を提出いたしました。その結果、日本医師会から全国の医師会・各学会向けに、より一層の託児施設の普及を呼び掛けていただきました。今後はさらに日本医師会の男女共同参画委員会などにおいて、引き続き託児サービス普及のシステム作りなど議論していただけると聞いております。全国医師会の持っている地域ごとのノウハウを基に、このような託児サービス設置マニュアルがあちこちに普及し、子育て中の先生方の研究会や講演会参加の選択肢が増えることを期待しています。

公益社団法人日本医師会
会　　長　　横 倉 義 武 様
公益社団法人日本医師会 副会長/女性医師支援センター
センター長　　今 村　　聡 様

学会・講演会開催時の託児サービス併設マニュアルの

全国普及に向けたお願い

日頃、医師の医療活動の支援につきまして、特段のご配慮をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、女性医師の就業継続に向け、各方面尽力されている中で多くの全国学会には託児施設が併設されるようになり、こどもを連れての学会参加が可能となってきました。しかしながらサブスペシャリティの学会にはなかなか託児が完備されておらず、特に子育てについての第一義的責任がある医師がサブスペシャリティを学ぶ場合、その責任の少ない医師と比較し、学会や講演会にあまり参加できない、発表の機会を得にくいという声が多く聞かれるのも事実です。日本泌尿器科学会ダイバーシティ推進委員会では、これまで各種全国学会に対し託児設置を要請してきましたが、専門分野が多岐に渡るに従い、全てに開設を要請するのは不可能であると感じているところです。

北海道医師会では、専門領域を超えて、また学会や講演会主催者側の目線にも立って、小さな学会であっても託児設置希望がある場合に柔軟に対応できるよう、「研修会・講習会・講演会等の開催時の託児サービス併設マニュアル」を作成しています。本委員会で検討した結果、このような託児併設マニュアルが全国的に普及されれば、各地で開催される専門領域の学会においても託児の開設がスムーズになるのではとの結論に至りました。日本医師会の女性医師支援センターにおきましても全国への普及をご検討いただき、広く普及を促していただけるよう、ご協力賜りたくお願い申し上げます。

2020年1月20日
一般社団法人日本泌尿器科学会　理事長　大家　基嗣
一般社団法人日本泌尿器科学会　ダイバーシティ推進委員会
委員長　宮澤　克人
/公益社団法人　日本女医会　会長　前田 佳子
/北海道医師会　医師キャリアサポート相談窓口コーディネーター　西田 幸代

北海道医師会
医師キャリアサポート相談窓口

ドクターの人生に寄り添い、
希望にかなう働き方を全力応援!

医師としての復職、キャリア継続をめざす方へ　就業・復職サポート
定年退職後も生涯現役でいたい方へ　セカンドキャリアサポート
仕事と子育ての両立をめざす方へ　育児サポート
家族の介護に支援を求める方へ　介護サポート

ご相談はこちら
0120-112-500 [受付時間 月～金9:00～17:00]
FAX:011-231-7272　mail:josei-dr-shien@m.doui.jp

◎詳しくは専用ホームページをご覧ください
http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/
北海道医師会 医師キャリアサポート相談窓口
札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会